



帆引き船

行方市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県行方市です。麻生支店長が行方市長 鈴木周也氏にお話を伺いました。

行方市は第37回(2016年8月)の本コーナーで紹介させていただきました。改めまして、行方市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。
(取材日:2020年3月3日)



行方市長 鈴木 周也 氏



麻生支店長 関 雅彦

■ この地に息づくアイデンティティを繋ぐ

行方市は、今から約1,300年も前に編纂された「常陸国風土記」にも記される、全国でも有数の歴史あるまちです。霞ヶ浦と北浦に挟まれた風光明媚な景色を有し、古よりこの地ならではの文化や伝統が受け継がれてきました。

2005年、本市は麻生町、玉造町、北浦町が合併して「行方市」となりました。合併の際、新市名

として多くの候補が挙がりましたが、最終的に、古来よりこの地域の地名として親しまれてきた「行方」が採用されました。今後も市名を通して、この地域に息づくアイデンティティが受け継がれていくものと確信しています。

しかし、「行」や「方」は小学校で習う易しい漢字である一方、市名の「行方」は一般的な読み方ではないため、県外の方からは正しく読んでいただけない場合があります。そのため、今後は、本市の良さ・魅力と合わせて、知名度の向上に繋がるさらなるPRに努めたいと考えています。

■ 6次産業化の推進で全国から視察が訪れるまちに

本市の産業で、ここ数年大きく伸びているのが農業です。なかでも、サツマイモの産出額は増加傾向にあります。

これまで本市は、品質を重視し、年間を通して60品目以上の農作物を出荷する、「高品質多品目」産地として農業を展開してきました。しかし、農業従事者の高齢化や農業は「儲からない」とのイメージがいまだに先行しているため、離農者の増加や後継者不足が課題になっています。

そのような状況のなか、2015年にJAなめがた（現JAなめがたしおさい）と白ハト食品工業㈱が協力し合い、廃校となった小学校跡地に「なめがたファーマーズヴィレッジ」をオープンさせました。同施設は、やきいもミュージアムやサツマイモ加工工場、農業体験、レストラン、マルシェなどが一同に集結する「体験型農業テーマパーク」として、オープン以来多くの人でにぎわい、現在では、6次産業化の成功事例として最も有名なものになっています。



なめがたファーマーズヴィレッジ外観

なめがたファーマーズヴィレッジの開設に至った背景の一つに、近年の禁煙化が関係しています。本市では、昔から葉タバコ生産農家が多くありましたが、社会の禁煙化が進むにつれ、他の農作物への生産転換をせざるを得ない状況がありました。ちょうどその頃、JAなめがたが進める「焼き芋販売戦略」が好調だったこともあり、多くの農家がサツマイモの生産に取り組んでいきました。その結果、加工工場がスムーズに稼働できるだけの大量のサツマイモが集荷できるようになりました。

焼き芋販売戦略とは、サツマイモの消費拡大のため、市場や量販店、スーパーマーケットの店頭などで焼き芋を販売することで、新たなニーズの創出と販路の拡大に繋げていこうとする取り組みです。綿密な焼き方の研究により焼き具合の均一化が図られたことで、焼き芋の美味しさがより消費者に伝わるようになり、現在も順調に売上が伸び続けています。

また、エリアごとに土壌の状態を調査したことで、品種や品質の管理が適切に行われるようになりました。さらには、保存技術が向上したことで、サツマイモの端境期である夏場も出荷可能となり、農家は安定収入を得られるようになりました。

近年は、サツマイモや冷凍焼き芋などの加工品の海外輸出も始めており、当初は東南アジアを中心に展開していましたが、現在は、カナダやフラ

ンスにも輸出しています。今後、「YAKIIMO」を世界共通語として広めたいと考えています。

なめがたファーマーズヴィレッジでは、サイズが大きい、小さい、キズがついているなど、通常は売り物にならない規格外のサツマイモを取り扱い、ピューレや粉末状に加工して、パンや菓子の製造に使用しています。

このように、生産者が丹精込めて作った農作物が無駄にならないだけでなく、規格外のものでも稼げるようになったことは、非常に嬉しいことです。以前は「儲からない」と嘆いていた農家も、今では「人手が足りない」と嬉しい悲鳴をあげるまでになっています。

かつて、本市のサツマイモは一反歩（約300坪）約20万円程度にしかありませんでしたが、今は60~70万円ほどに値上がりし、約3倍の収益を上げられるようになってきました。このようなことから、全国からの視察が後を絶ちません。



焼き芋販売戦略で農林水産祭最高位の天皇杯を受賞

また、サツマイモ以外にも6次産業化に成功した事例があります。50代で会社を退職し、実家の田んぼとハウスを引き継ぎ就農した方は「トマト塩麴」を独自に開発し、様々な賞を受賞しています。

現在、本市では、農業後継者対策として、新規就農時の助成や農機具等の購入の補助などの支援を行っています。新規就農者には、市内在住の方だけでなく、市外から移住された方もいます。

就農後は、レンコンやイチゴ、サツマイモ、ベビーリーフのほか、まだあまり市場には出回っていないブランドトマトの「キストマト」や「恋のつぼみ」などを作っており、今後に期待しています。

かつて、北海道産米は「食味が劣る」などの低評価を受けてきました。しかし、研究開発が進み、「ゆめぴりか」は安心でおいしいお米として、全国にその名を轟かせています。近年の北海道では、サツマイモの栽培も可能になり、近い将来、

本市を脅かす産地になる可能性があります。もちろんその場合も、生産量ではなく、品質で勝負するつもりです。そのためにも、今後は地域ブランドの確立に向け、「地理的表示 (GI) 保護制度」¹の登録を目指したいと考えています。

■ 湖岸線の活用で交流人口の増加へ

本市は、霞ヶ浦と北浦の湖岸に面しており、水際線の総延長は日本トップクラスの約50kmを誇ります。また、湖岸の一部は「水郷筑波国定公園」に指定されるほど、美しい自然景観を有しています。

霞ヶ浦湖岸からの眺めはどこをとっても美しいのですが、特に対岸に臨む筑波山は絶景です。よく晴れた日には、富士山や東京スカイツリーなども望むことができます。茜色の空の中、揺らぐ湖面を輝かせる夕陽も美しく、空気の澄んだ冬には、ダイヤモンド富士を見ることもできます。

また、湖岸線に「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が整備されたことで、サイクリストが多く訪れるようになりました。霞ヶ浦大橋のたもとにある道の駅「たまつくり」は、サイクリスト達の休憩ポイントにもなっています。今後もSNSを活用した情報発信などを通して、交流・関係人口の拡大に繋げていきたいと思ひます。



霞ヶ浦湖岸から望む富士山

■ 誰もが安心して暮らせるまちづくり

本市の水道は、整備されてから約50年が経過し、水道管や施設の老朽化が進んでいます。このほか、市庁舎を含め、老朽化した公共施設は数多くありますが、財政的に全てを更新するのは難しい状況です。そのため、2016年に総合戦略を策定して以降、市民とともに、更新の優先順位を考えてまいりました。本市の現在の人口は合併時と比べて、約7,000人も減少していますが、農業をはじめとする所得の向上が見られ、税収は増加しています。これらを上手くコントロールしながら予算化し、必要性の高いものから順次更新していく予定です。

また、県内の多くの自治体が、可住地面積が広いことによるインフラ整備の非効率性に苦慮しています。そのため、本市では、市が合併浄化槽の設置や管理を行うなど、市民が暮らしやすい環境の整備に取り組んでいます。

市長就任以降、私は地域コミュニティの再構築に注力してきました。これからの時代、少子化、高齢化は避けて通れません。そのため、今後は、地域コミュニティを今より細分化することで、全ての市民が孤立することなく、生涯にわたり安心して暮らせるまちにしたいと思ひています。

■ 情報発信日本一のまちへ

近年、これまで経験したことのない、私たちの想定を超える自然災害をはじめ、さまざまな出来事が起きています。そのため、本市では、市民がより安全・安心に暮らすことができる環境を整えるため、2016年、防災対応型エリア放送「なめがたエリアテレビ」を開局しました。

今の時代、情報は、誰でもどこでも即時に取得できるようになりました。そのため、市民は様々なチャンネルから適切な情報を判断し、取捨選択する必要があります。なめがたエリアテレビは、家庭用テレビやワンセグ機能付きの端末等で視聴できるため、平時はもとより有事の際にも必要な情報を市民へ届けることができます。

また、今後、農業分野におけるICT化やAI化等が図られ、その技術や経営が大きく変化することが予想されます。実際にスマート農業が展開されるようになった場合、ベースとなるインフラ整備が必要になると思ひます。なめがたエリアテレビはその情報を得るための1つの手段になり得ればと考えています。

今後も「情報発信日本一のまち」となるよう、なめがたエリアテレビをはじめとするあらゆる媒体を通じて、様々な情報を発信してまいります。

■ 筑波銀行に期待することは何ですか

筑波銀行には地域産業支援活動に加え、昨年の台風被害などの甚大な災害にもご対応いただき、深く感謝しております。企業にとって、資金の停滞は一番怖いことです。そのため、地域産業や預金者などに対するこれまで以上のサービスの展開と、事業承継のサポートを含め、まちの将来を担う若者達の希望に寄り添う活動を期待しています。

写真提供：行方市

1 品質、社会的評価その他の確立した特性が産地と結び付いている産品について、その名称を知的財産として保護するもの。